



探し、吠え 教える

続けるんだ 命がいる限り!!

災害救助犬の生みの親
坂井貞雄さん

見つけたのは、警視庁の災害救助犬。災害救助犬とは、地震などの災害時に家屋の下に倒れた命を救出する犬だ。この命を救出するヒントは、救助現場で見つかった奇跡の救助劇だった。

同作は、新潟中越沖地震で崩れた床の中から、男の子が90時間ぶりに助け出された光景を覚えている読者も多いことだろう。

見つけたのは、警視庁の災害救助犬。災害救助犬とは、地震などの災害時に家屋の下に倒れた命を救出する犬だ。この命を救出するヒントは、救助現場で見つかった奇跡の救助劇だった。

人命救助犬

題字・水六輔

95年1月17日、あの阪神・淡路大震災のときも、坂井さんと救助犬ヤール、アドワイン、クニは緊急出動した。あれから14年、いまだ、国からの援助もなく、災害救助犬はボランティア扱い。それでも、現場に向かうのは、「人を救いたい」から。



いまだ記憶に鮮明に残る阪神・淡路大震災。壊れ落ち、一瞬で瓦礫の山となった

に合格するのはせいぜい4、5頭いるかどうか。試験の途中で脱落する犬もいますし、まさに狹き門といったところですね。また、もとあれ、まずは訓練を見てください」

という坂井さんに案内され、さっそく隣接する練習場へ向かうと、そこには穴に埋められた土管や、瓦礫を構成した山、そして頭上高く設置されたハシゴといった本番さな

**顧客満足度が高い
厳選美容外科！**

お客様の生の声を反映させ、それぞれの治療内容に合った専門医をご紹介し

発車で出かけたんですね」
坂井さんは救助犬3頭
ずれもシェエペード犬のヤ
ル、アドワイン、クニヒ
ル、訓練士の岡田みゆきさん（右）
幼稚園のころ震災を経験。吾妻真穂
は発達症アンドレイ（5歳）の担当

「うれしい愛知県消防隊に交渉、緊急事態宣言を解除して貰った。車両の間に入る形で午後6時30分、ようやく神戸に入つた。しかし、いざ現地に入つてはいるが、二度現地を懸念した対策本部の判断で、『結局スイスから来る4チーム(12頭)を待つて現場に入ることになり、捜索開始が半日延びてしまったんです』翌朝の捜索は1階部分が完全につぶれた木造住宅から始まつた。するとヤールがすぐさまに反応する。が、スイスの救助犬はまったく反応しない。『スイスの救助犬が反応しないんだから、ここにはいないんじゃないのか』

だが、ヤールが反応した場所から、60代の女性遺体が見つかったとの連絡が入ったのは翌日のことだった。本当に出来事がわれわれ日本側の信頼につながって、翌日からはレスキュー隊同行して捜査活動が始まつたんです」

2日目になります一行が向かつたのは、62歳の女性が生き埋めになつているとみられる倒壊現場だったが、ベシヤンの状態ではない。ところが、すぐには反応したのはアドウェインだった。あたりに粉塵が立ち込めるなか、アドウェインが同じ

「おそらく最初の縦搔で、階段部分がつぶれてしまい、結構壊れ残りすべてが倒壊したのでしょうか？」
「ええ、それで坂井さんが3頭でスチームが入り、遺体を運んでくれたのが女性だけが見つからないというんです」
「そこで、坂井さんが3頭で捜索する」と。



ひとりでも多くの命を救いたい
俺がやらないで誰がやるんだ！」

助犬の歴史に大きな1ページ
を刻むことになるのだ。

阪神・淡路大地震の教訓を忘れてはならない――。
そんな思いを胸に坂井さんら災害救助犬協会のメンバーは翌96年には新潟県小谷村土石流災害に出動。また99年の台湾中部大地震、その後も新潟中越地震(94年)や能登半島地震(97年)にも緊急出動し、捜索活動に参加。
坂井さんたちの活躍に触発された形で各地でさまざまなボランティア団体が誕生した。
しかし、災害救助犬の育成と出動はあくまでもボランティア扱いのため、いまだに国や自治体からの公的な援助はないとありますね」
3年前のことだ。消防庁

の命を救いたい
誰がやるんだ！

「そればかりか二次災害を恐
れる行政の判断で、現場まで
入れないこともあります。まだ
まだ問題は山積みなんです」

と、坂井さんは唇をかむ。

ただ、災害救助犬はなにも
大災害にだけ出動するわけ
はない。

「例えば、菜葉取りに出かけ
て山に迷い込んでしまった人
や、認知症のお年寄り捜索、
あとは自殺願願者を探してほ
しい」といった依頼が来るこ
ともありますね」

3年前のことだ。消防庁か
ら、火災で全焼した寺で行方
不明になってしまった住職の姿が、到
着からわずか15分の出来事だ
つた。

「犬がなぜ生存者ではなく、
しい」と、その真下からは、
立ちはだかる瓦礫の山と化し
ていた。

「サーチ！」

石割さんが、ロッキーで搜
索を始める。入り口付近で
立ち止まつたロッキーが何度
も同じ場所をグルグル回る反
応を示す。「ここを掘ってみてください」
すると、その真下からは、
瓦礫の山と化していた瓦礫の山と化して
いた。

「レルトリバリー・6歳・雄」
と救助犬ロッキー（ラブラド
ー）の名前が、現場に直行。
訓練士の石割真由美さん（45）
と救助犬ロッキー（ラブラド
ー）の名前が、現場に直行。

そこで坂井さんはペテラン
訓練士の石割真由美さん（45）
と救助犬ロッキー（ラブラド
ー）の名前が、現場に直行。

征子さん（63）だ。ふたりけで仕事自体、どういうものなのかわからませんでしたから。朝は早い、帰ってくれればそのままバタンケーですけれど（笑い）。たゞ、犬のことだけは、一本筋が通っている人で……それは当時も今も全然変わりませんね」

と、目を細める。

とはいえ、災害救助犬の育成はボランティアのため、取扱い料で捻出するしかない。

「正直、お金にはなりません（笑い）。でも、主人がよくいうんですよ、『俺がやらないとき誰がやるんだ？』、それが自分の天から授かって使命

より、災害時に出動協定を結ぶ自治体は徐々に増えているものの、国全体で取り組む姿勢になつてないのが実情だ。「スイスでも災害救助犬はボランティアですが、災害が起きたときには自治体や警察が防災などから要請があり、政府の指揮のもと、被災地で救助活動を行います。つまり民間の災害救助犬を活用するシステムが確立されているんですね。ところが、日本の場合は税割り行政の中でなかなかそれが実現できなき。大地震が起つてから、ああしてしつこく思つて手遅れ。早い連携が必須なんです」震災後、坂井さんたちは民間の災害救助犬が災害時に出動できるよう、国に対し要望



人情キヌメノ

坂井さんの指す「自分自身の指揮」は厳しく、なぜなら自身が責任の重さを痛感しているからだ。そして、その根底にあるのが「ひとりでも多くの人命を救いたい」という想いだ。そんな坂井さんのそばで長

「母さんには、訓練士たのむが、
『主人を頼んで地方から出て
きた訓練士たちは、私にとっ
てもかわいい子ども當然です。』
犬のことはわかりませんか
ら、せめて身の回りの話でく
らいね……そうやつてあの子
たちが一人前になつて巣立つ
てくれたらうれしいですね」

【地震】日本。にもかか
わらず日本人の危機管理意識
は相変わらず低い。
だからこそ、今日も災害救
助犬たちの厳しい訓練が続く。
そこに救えるはずの命がいる
限り――。

57 週刊女性

プライバシー厳守 **相談無料**

- 二重・隆鼻
- バストアップ
- 脂肪吸引
- シミ・ほくろ
- シワ・タルミ
- 歯並び・インプラント
- ワキガ・多汗症
- 小顎

センター開設5周年記念
5%キャッシュバック キャンペーン!!
 買取後、当社キャンセル確認フォームにてご入力頂いた方へ、医療料の5%を返させていただきます。
ビューティー相談室
 フリーダイヤル
0120-975-901
<http://soudan-go.com>
 相談受付時間 10:00~19:00 年中無休
 東京都港区新橋1-11-3

週刊女性